

5-7. モビリティマネジメントの推進



プロジェクトの概要

- ◆ 戦略プランでは、環境や人に優しく、人々が日常生活に必要なサービスを楽しむことができる暮らしやすいまちづくりを進めるため、自動車と公共交通のバランスの取れた交通体系の実現を目指しています。
- ◆ しかし、環境問題や地域社会を支える移動手段として期待される公共交通も、利用者であるより多くの市民から、実際に利用していただかなければ、その効果を発揮し、一定のサービスレベルを維持することはできません。
- ◆ このため、公共交通の利便性を高める取り組みとともに、市民一人一人が過度に自動車に依存した行動を見つめなおし、無理のない範囲で自発的に変化することを促すモビリティ・マネジメントを推進します。

(参考) モビリティマネジメントとは？

定義・・・ひとり一人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向^(注)に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通施策

【注】：例えば、過度な自動車利用から公共交通・自転車等を適切に利用する方向

モビリティ・マネジメントの3つの特徴

- 自発的な行動変化を期待する
- 意識や習慣等の社会的・心理的要素に配慮する
- 大規模かつ個別的なコミュニケーションを主体とした施策である

【モビリティ・マネジメントの手引き】 土木学会より

(1) 市民意識やニーズを踏まえた活動展開

(仮称) にいがたMMネットワークの設立

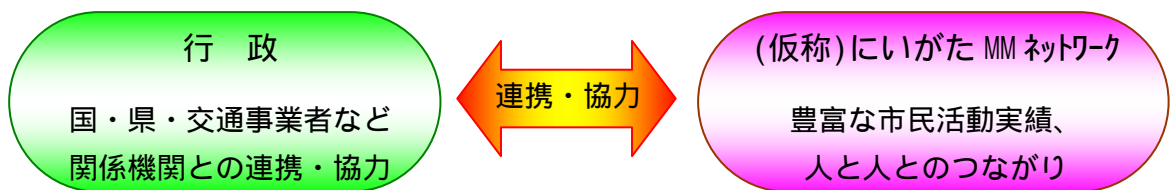
モビリティ・マネジメントをより実効性の高い活動とするため、環境問題やまちづくり・経済活動など様々な分野で活動する団体や市民などの意見を取り入れながら、施策や進め方について検討を行う(仮称)にいがたMMネットワークを設立します。

〔モビリティマネジメントの推進イメージ〕

【推進体制の狙い】

市民と行政が互いの得意分野を活かしつつ共に連携・協力し、市民参加のもとに交通の観点からまちづくりを考え、市民の自発的な行動の変化を促す「新潟版モビリティマネジメント」に取り組めます。

NPO 等市民団体



市民が参加して結果的に納得感を得ることができるプロセスデザイン
交通だけでなく、環境・健康・経済・教育・生活といった多面的な考察

都市交通施策の検討・推進
施策の効果検証・評価見直し

情報交換

市民意見を反映できる場作り

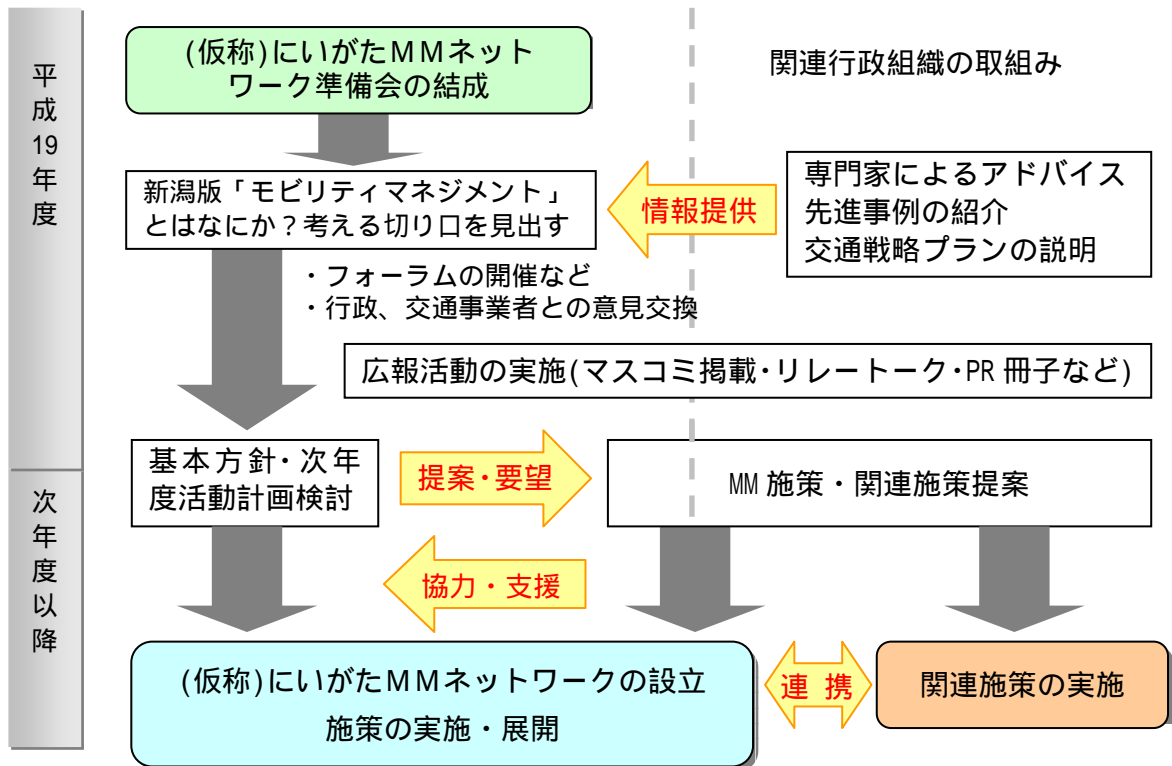
MM に関する企画と技術的検討
公共交通などの利用啓発活動
活動成果の評価

活動連携

市民参加の目的を明確にし共有
市民の意向を反映した運営提案
適切な参加方法の提案・実施
市民への情報発信

より多くの市民が参加できる機会の創出と施策の展開

〔当面の作業スケジュール〕



モビリティマネジメントの施策内容の検討

モビリティ・マネジメントの推進に向けて、行政の視点だけでなく、参加メリットや共感を得られやすい目標設定など、市民の視点に立った活動計画を検討します。

〔施策の方向性〕

a . 共感を得るための仕掛けづくりと情報発信

・・・ 行政だけでなく、より多くの団体や個人から、いかに理解と協力を得られるか？

賛同していただける理念、相互理解と信頼感を醸成する機会の創出
わかりやすく共感を得やすい目標設定。

より多くの市民に伝わるネットワークづくり（情報発信）

b . 参加意欲を駆り立てる環境づくりと場の提供

・・・ 自発的に参加してみたいくなる気運をいかにつくるか？

メリットや魅力を感じる活動・会合、課題・危機意識の扇動

c . 活動を広めるためのアイテムづくり

・・・ セグメント（属性）に応じた仕掛けづくりが必要！

話題作り、ニーズや目的に応じた小道具の作成

広く市民を対象にしたモビリティマネジメント

過度な自動車依存を見直し、公共交通などの環境負荷の少ない交通の利用を促進させるためには、環境問題などに対する意識の醸成を、特定の地域だけでなく市全体で継続的に実施していくことが重要と考えます。

そこで、キャンペーン、TFP、総合学習など様々な手法を用いて、広く市民を対象にしたモビリティマネジメントを展開します。

TFP(トラベル・フィードバック・プログラム)とはアンケートなど複数回の個別的なやりとりを通じて、対象者の交通行動の自発的な変容を期待する施策

〔広く市民を対象にしたモビリティマネジメント取り組み(案)〕

手法	内容(案)
キャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマイカーデーの実施 ・健康と環境をテーマにしたライフスタイルに関するキャンペーンの実施 ・飲酒運転撲滅に向けた、深夜バスの乗り場を紹介するマップの作成
TFP	<ul style="list-style-type: none"> ・車の利用を控え、公共交通を利用する運動に参加する市民の募集し、参加者にガソリン節約額やカロリー消費量などの診断書を発行 ・公共交通の利用実績や歩いた距離を記録し、行動変化に伴うCO2削減量や消費カロリーなどを換算するエコカレンダーの作成
総合学習	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生向け、環境と交通読本の作成 ・(仮称)にいがたキッズエコロジーの開催 環境と交通に関するテキストの配布とバス乗車体験会の実施 など
ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ貢献度、消費カロリー計算ホームページの開設
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・都市交通に関するシンポジウム・ワークショップの開催 ・自動車免許の自主返納の支援の検討 ・目的(学校への登下校、観光など)に応じた都市交通マップを作成 ・公共交通を利用しない人を含め、公共交通を楽しく面白い都市の要素として活かすアイデア募集などによる話題づくり

〔ノーマイカーデー実施事例「ノーマイカーデーひろしま 2006」〕

・取り組みを広くPR



チラシ

・公共交通利用促進に向けたサービスの展開



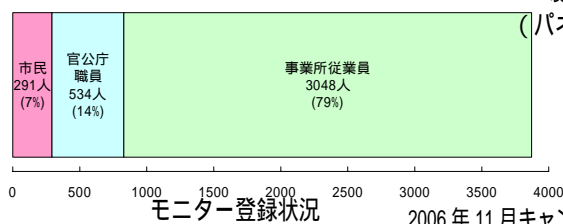
アストラムライン割引1日乗車券

・イベント等による啓発活動



環境の日ひろしま大会
(パネル展示、環境クイズ)

・一層の普及を目指した環境行動モニター募集



(2) 交通施策と連動したモビリティマネジメントの推進

りゅーとリンクの利用を促進するモビリティマネジメント

公共交通指向型の土地利用を促進する先導的なまちづくりの一環として、りゅーとリンク沿線の利用促進に関わるモビリティマネジメントを展開します。

具体的には、平成 19 年度においてりゅーとリンク沿線の中央区高美町・上沼町で実施したワンショットTFPの結果を踏まえ、沿線住民に対する有効な意識啓発活動の検証と、新たな沿線地域への活動拡大を進めます。

ワンショットTFP（ワンショット トラベル・フィードバック・プログラム）とは公共交通などの情報提供と組み合わせて、「コミュニケーションアンケート」のみ実施する最もシンプルなTFP

〔りゅーとリンク沿線のモビリティマネジメント実施エリア〕



国道8号方面バス利用を促進するモビリティマネジメント

国道8号方面の白根線バスを強化していくためには、利用者ニーズと連動した施策展開とより多くの利用者からの愛着が大切なことから、計画段階からの利用者意見の把握と、行動変容を促しながら自動車利用からの転換を図る取り組みを進めます。

また、白根地区の商業・観光の活性化の観点から、まちなかに賑わいを創出するため、「白根地区市街地の情報発信と総合的な交通案内がセットになった交通マップ」や「沿線の情報マップ」の作成を検討します。

さらに、白根地域における「アダプト制度の導入検討」により、沿線地域住民が知恵を出し合い議論する場を設け、地域が生活交通を守り育てる取り組みや機運づくりを促進します。

アダプト(adopt)とは「養子縁組をする」という意味で、市民が公園、緑地などの公共施設を養子のようにいつくしみ、世話をすることから名づけられました。

〔商店街の情報発信と総合的な交通案内がセットになった交通マップ事例「ふるまちマップ」〕



モラル・マナーの啓発

放置自転車や歩行者と自転車のトラブルの増加といった問題に対応するため、自歩道や駐輪場などの利用環境の整備促進を図るとともに、利用にあたってのモラル・マナーの啓発に取り組みます。

〔自転車マナーアップデー パンフレット事例 高崎市〕

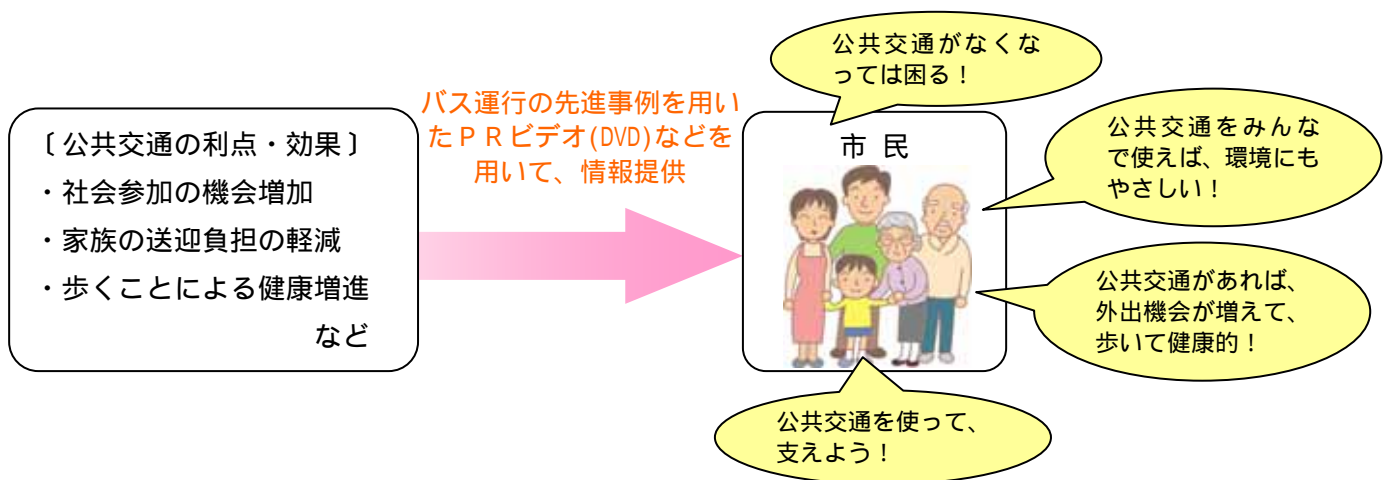


住民バスや区バスなど生活・地域交通に関するモビリティマネジメントの推進

中央区以外の7区では、市民が自らの区内で一定の生活を行なうとともに、個々の観光資源を活かすなど地域の活性化を図っていくためには、まず、住民バスや区バスなどの生活・地域交通の安定した利用者数の確保により、持続可能な運行を確立させることが重要と考えます。

そこで、送迎負担軽減や社会参加の機会増加など、地域交通としての公共交通の利点・効果を全国の先進的な事例を用いて理解してもらうなど、生活交通を支える意識の醸成に資する取り組みを進めます。

〔生活交通を支える意識の醸成に向けた施策イメージ〕



骨格幹線バス路線や鉄道を利用促進する
モビリティマネジメント

他路線に比べ、高い運行頻度サービスがある国道 116 号・国道 113 号方面の路線バスのさらなる利用促進に向けて、沿線地域の特性(施設分布など)を把握し、大学・病院・企業などをターゲットにした新たな施策を検討するとともに、その施策に合わせて目的にあった公共交通マップの作成やTFPなどによりモビリティマネジメント施策を展開します。

鉄道については、駅でのパークアンドライドなどの施策を検討するとともに、骨格幹線バス路線と同様に、その施策に合わせてモビリティマネジメント施策を沿線地域で展開します

行動計画(案)

